

INFORMATION

No. 1407-14

新規受託のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、下記の項目につきまして、新規受託を開始させていただくことになりましたので、ご案内申し上げます。

敬具



■検査要項

コード	検査項目名	採取容器	検体/ 検体量(保存)	検査方法	基準値	所要 日数	実施料 [判断料区分]
3904	特異的IgE Ara h2 (ピーナッツ由来)	A	0.3ml (冷蔵)	FEIA	0.34U _A / ml以下	3日～ 5日	110点 [免疫学的]

備考

他のシングルアレルゲンとは判定基準および報告形態が異なりますので下表をご参照ください。

(クラス報告は行いません。)

アレルギー検査専用報告書(チャート)では報告されませんのでご注意ください。

検査結果が陽性の場合、問診および特異的IgEピーナッツ(当社検査項目コード;3340)の検査結果と併せて、総合的なご判断をお願いします。

補足)試薬の添付文書では「イムノキャップ特異的IgE f13 ピーナッツ」が陽性である者に対して用います。との記載があります。

判定基準

IgE抗体濃度(U _A /ml)	判定
0.34以下	陰性
0.35～3.99	疑陽性
4.00以上	陽性

■受託開始期日 平成26年 8月 4日(月)より受託開始

株式会社 武蔵臨床検査所

*お問い合わせは当社または担当者までお願いいたします。

〒358-0013 埼玉県入間市上藤沢309-8
TEL 04-2964-2621 FAX 04-2964-6659
URL <http://www.e-musashi.co.jp>

■特異的IgE:Ara h 2(ピーナッツ由来)

ピーナッツ(落花生)は重篤な症状を起こすアレルゲンの一つとして、食品衛生法上表示が義務付けられている食物です。重篤なアナフィラキシーショックを起こすことがあり、食物アレルギーの中では死亡例も報告されています。

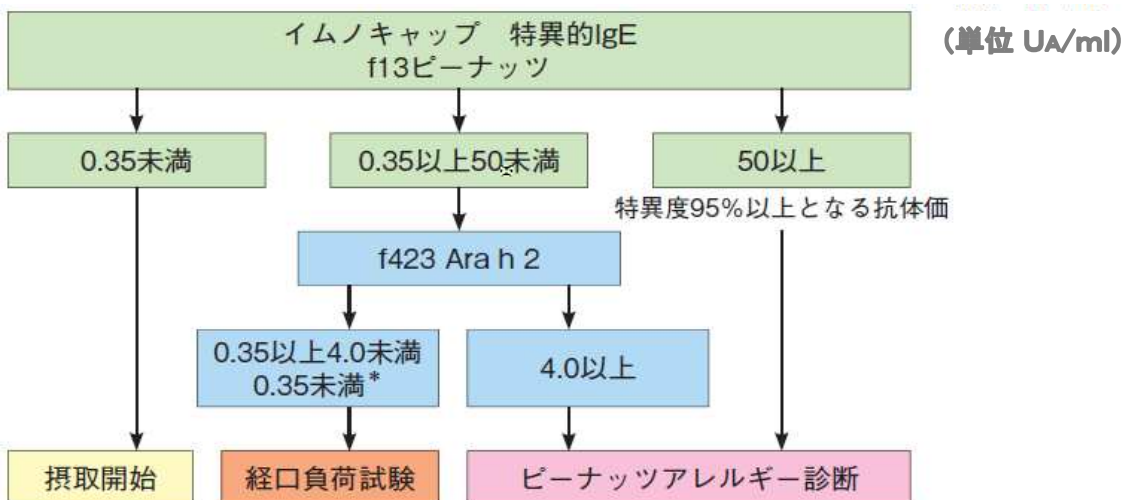
ピーナッツアレルギーの検査には通常、完全抽出物による粗製抗原を用いた特異的IgE検査が用いられますが近年、ピーナッツのアレルゲンはAra h 1,2,3,8,9などのいくつかのコンポーネントにより構成されていることが分かってきました。この中の1,2,3に対する特異的IgE抗体の存在が真のピーナッツアレルギーとされ、重篤な反応を起こすリスクが高いと考えられています。この中でAra h 1はピーナッツの主要なアレルゲン物質で強いアレルギー活性を持ち、高濃度NaClの存在下などでさらに活性が増強されます。また、Ara h 2はそれ自体も強いアレルギー活性がありますが、 α -アミラーゼ/トリプシンインヒビター活性を有し、高温で処理されることによりトリプシンインヒビター活性がさらに数倍増強されるため、Ara h 1の消化を阻害し、さらにアレルギー活性を高めます。ピーナッツをボイルして食することが多い中国などと比較し、ローストなどの高温処理して摂取することが多い欧米で重篤例が多いのはこのためと考えられています。さらにAra h 2は即時型ピーナッツアレルギー(IM型)に対して陽性率が高く、ピーナッツ摂取によるアレルギー症状の誘発リスクを持つ可能性のある患者様を高い確率で選別することが可能となりQOLの向上が期待されます。

通常行われているピーナッツ特異IgE抗体検査は、ピーナッツアレルギー患者でなくとも陽性となることがあり、ピーナッツ除去が不必要なケースもあると考えられています。

また、アレルギー原因食物の確定に用いる食物経口負荷試験(OFC)は、前述のように重篤な症状を起こすことがあるため、アナフィラキシーの既往がある場合などは原則として推奨されません。

海外ではピーナッツ特異的IgEとAra h 2検査を併用することにより、危険を伴うOFCの必要性を1/2~2/3に減少させることが可能であるという報告があります。Ara h 2を測定することはピーナッツ負荷試験陽性予測因子の補助診断として有用であり、より正確なピーナッツアレルギーの診断が可能になると考えられます。

- ◆ 特異的IgE:Ara h 2は、特異的IgEピーナッツと組み合わせることで、より正確なピーナッツアレルギーの診断に有用です。



実際の診断には血液検査の結果だけではなく、詳細な問診を実施し総合的に評価します。

*ピーナッツアレルギーでもAra h2陰性となる場合があります。
患者様の状況に応じて経口負荷試験を考慮します。

(ファディア社レーフレットより引用)